

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470901107	事業の開始年月日	平成16年7月1日	
		指定年月日	平成18年4月1日	
法人名	医療法人社団裕正会			
事業所名	グループホームウェルケア			
所在地	( 223-0058 ) 横浜市港北区新吉田東8-31-13			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成23年11月15日	評価結果 市町村受理日	平成24年1月22日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、入居者一人一人の個性を尊重した個別のケアに重点を置いています。全体での生活や行事だけでなく、各々の特徴に合わせて個別や少人数での外出や外食なども多く実施しています。  
また、医療面でも母体施設の訪問看護や協力医療機関とチームを組んだケア体制が整っています。ターミナルケアも実施しており、最後までしっかりとケアが出来るよう、よりいっそうの技術と意識、そして知識の向上を目指し日々取り組んでいます。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	職23年12月2日	評価機関 評価決定日	平成24年1月4日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

＜事業所の優れている点＞  
◇法人の理念「一人ひとりを尊重し、明るく家庭的なゆとりのある生活を利用者に提供する」の具現化努力  
グループホームとして、下記事項は当然行わなければならない事項であるが、当事業所ではそれらが自然に総合的に調和され、利用者と家族の安心感に繋がっている。  
・利用者の思いを聞き取り、その人、その人が毎日を楽しく過ごせるように、買い物に出かける人、昔、暮らしていた所にギンナンを拾いに出かける人、本を読む人、話をする人、テレビを楽しむ人など、それぞれを支援している。  
・町内会行事に参加したり、地域の建設業者主催のお祭りに出かけたり、散歩時に会う近隣の人と挨拶を交わすなど交流して、利用者自身が事業所を自分の「住まい」として生活をしている。  
・重度化対応の指針を入居時に説明している。看取りの状態が近くなった時には、医師、家族と十分に話し合い、同意を得て、ターミナルケアを行っている。  
・協力医療機関や同一法人の訪問看護ステーションの看護師が健康管理を行い、また、24時間医療連携体制により利用者に安心感を与えている。  
＜事業所が工夫している点＞  
◇事業所の防災訓練や同地区のグループホームカメラ主催の地域に向けた防災訓練に参加し、地域との連携を深めながら、防災訓練を積み重ねている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ウェルケア
ユニット名	星

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スポーツ大会など地域の行事に積極的に参加し、家庭的な雰囲気を味わっていただけるように努めている。会議だけではなく、日常の業務の中でも理念を共有できるように取り組んでいる。	・法人の理念「大切なひとだから」を基に一人一人を尊重し明るい家庭的なゆとりのある生活を目指して話し合い、常に意識して実践に努めている。利用者の意向を把握して楽しく過ごせるよう支援している	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などの情報が得られるように、地域の方々との連携に努めている。また、散歩などの場面でも地域の方々にも声をかけ、交流を深めている。	・町内会の運動会や夏祭りや、地元の建設会社のお祭りに出かけたり、新田地区センターの文化祭を見に行ったりしている。 ・地域グループホーム主催の避難訓練には地域の人達とともに参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への参加や散歩など、いろいろな場面で私達が介助にあたっている場面を見ていただき、地域の方々にも認知症の方々の様子や対応を知っていただけるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3施設合同で行っている。他施設での事例を共有することで、新しい取り組みへ発展させるなど、サービス向上に繋がるよう取り組んでいる。	・同一法人の同じ地域にある、他の施設と合同で、町内会長 民生委員、地域包括センター担当者、他施設の管理者の参加を得て運営推進会議を開催している。 ・事業所の現況報告や地域の情報について話合っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政に対しては、利用者様の様子など報告し、連携しながら、日々のより良い介助につながるよう努めている。	・港北区役所の担当課には生活保護受給者のため連携している。 ・市のグループホーム連絡会や神奈川県のグループホームブロック会議に参加して、情報交換を行なうほか、交換研修にも参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束等の行為については、会議の場はもちろんであるが、日々の介助の中でもその一つひとつが該当していないかを確認し合いながら、業務にあたっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修や話し合いで身体拘束をしないことを徹底している。</li> <li>・ベッドには転落時、速やかに対処出来るようにセンサーを設置して見守りをしている。</li> <li>・玄関は防犯上、家族の了解を得て、施錠している。</li> </ul>	・玄関の日中施錠について防犯上と言うことは分かりますが、玄関チャイムの設置や利用者の見守り体制の中から日中の玄関解錠の検討を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、施設内で研修会をもつと共に職員の何気ない行動が、虐待につながっていないかを確認し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設では、権利擁護に関する研修の場をもつと共に、それぞれの立場で利用者様に快適な生活を送っていただけるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設側と利用者・家族様等とは、それぞれの考えを提示し合いながら、契約等については疑問点が残らないように、共通理解に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族様に対しては、電話連絡や家族報告書の送付、来設時の面談などを通して、共通理解を図り、良い介護につながるよう、連携し取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族会を年1回行なうほか、来所時やプラン説明時に、家族から意見、要望を聞いている。</li> <li>・リハビリをして欲しいとの要望に対しては、生活そのものがリハビリになることを説明している。エアロバイクも勧めている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は、定期的に面談の機会をもつと共に、日々の業務の中でも疑問や意見などを出していきけるように心がけ、意見の反映に努めている。	・職員の意見は、月一回のユニット会議や2, 3か月一回の全体会議で聞いている。 ・管理者は個人面談をしたり、随時、声をかけて意見・要望などを聞いて、必要なものは運営面で取り入れ（休暇など）ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者との定期的な話し合い中で、情報収集を行い環境整備や問題点の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は積極的に勉強会や研修などの機会を提供し、また自らが講師となり職員のスキルアップへ導くこともある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者はグループホーム連絡会に入会している為、他のグループホームとの情報・意見交換または職員同士の交流が積極的に行われている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階での信頼関係構築容易ではない。個人を理解し焦らず自然な流れで信頼を得られるよう努めてる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に御家族様と御本人様に対して、話し合いの場を持ち、意見収集し不安点の解消や希望に沿えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様や御本人様が希望されていることを速やかに把握・対応することで信頼関係を構築できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人1人を尊重し明るく家庭的な生活の提供に努めており、入居者がスタッフの手伝いを行うなど手助けすることで互いの中に助け合う力が生まれている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に対しては負担を考慮した上で年間行事などの参加を常に促しており、参加された際は、今後も参加していただけるようご家族様にも楽しんでいただける工夫を模索している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や御家族に対しては来設を促し、直接行くことが困難な馴染みの場所に対しては、テレビや雑誌を活用し職員が思い出を引き出す工夫なども行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族や友人が来所した時には居室で歓談している。</li> <li>・デパートや買い物にも出かけたり昔、住んでいた所へギンナン拾いに行く人もいる。</li> <li>・リビングの壁には、往年の映画スターのポスターがたくさん貼ってあり、利用者間の話作りきのきっかけにもなっている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブル発生を未然に防げるよう、共用スペースでの見守りや環境配慮などを意識している。但し、不仲な者を避けるだけでは無く、職員が間に入ることで活動の共有も出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了であっても、その後もご本人様やご家族様が、気軽に接して頂けるよう終了時伝えており施設側からも関係継続の為の取組みを模索している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前に家族から本人の生活状況について情報を集めている。また、日常的に本人の希望を聞き、意向が掴み辛い場合は表情・しぐさから汲み取るように心掛けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居時のアセスメントや日常の会話から思いを聞き取り、会議で話合って情報を共有している。</li> <li>意向の表現が難しいような人には、表情やしぐさを見て汲み取るようにしている。</li> </ul>	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族から本人の生活状況・習慣・馴染みの場所についての情報を集め、入居後の生活に反映出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子・状態の変化を把握出来る様ケースカンファレンスノートを活用し、職員間の情報共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	Dr.・Ns.の意見を参考に計画を作成し、毎月カンファレンスを実施している。また、本人の意向・家族（友人）の意見を聞き、状況に応じて話し合いの機会も設けている。	・利用者が現在、したいこと、出来ることを見極めて目標を立て、それに向けて介護計画を作成している。 ・職員を利用者ごとの担当制にしており、毎月、介護の経過を記録し、6カ月ごとに、あるいは状態の変化時に部分的見直しまたは更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケースケアファレンスノートを活用し、職員間で情報を共有している。また、その情報をカンファレンスに活かし介護計画に組み込んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の訪問看護や、PT、ST栄養士等と連携をとり、多様なニーズに対応出来る様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練の実施、ボランティアや小学生の課外授業の受け入れも行っている。また、地区センターの利用や、地域の運動会・催し物にも積極的に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をかかりつけ医としている方が大半だが、他に主治医を希望する場合は希望を優先している。協力医療機関には、月2	・従来からのかかりつけ医に1名が受診している。 ・協力医の往診が月2回あり、 ・歯科医が週2、3回治療に来所し、週1回、口腔ケアを行なっている。 ・看護師が週一回、来所し健康管理をしている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の訪問看護ステーションと連携し、毎週状態の確認を行っている。また、24時間連絡が取れる様になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携し、必要に応じて情報交換・相談を行う事が出来る環境にある。また、その他のかかりつけ医との良好な関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に終末期へ向けた対応について記載している。重度化・ターミナルケアが予想される場合は、事前に家族・Dr.・Ns.との話し合いの場を設けている。過去2件ターミナルを行っている。	・入居時に重度化対応の指針を説明して同意書を貰っている。家族、医師と話し合いターミナルケアも行なっている。 ・看取り介護では、医師・看護師・家族とのコミュニケーションを大切にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が勉強会に参加し、応急手当や初期対応の訓練を行っている。またひやりはつを活用し事故を未然に防ぐように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署との連携により、年二回避難訓練を行っている。また職員の消火訓練も行い、不測の事態に備えている。	・年2回、夜間想定で防災訓練を行なっている。 ・近隣のグループホームが地域と行政に働きかけて行なう防災訓練に職員が参加して参考になっている。 ・東日本震災の体験をもとに、水、食料、ガスボンベ、懐中電灯などを備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として尊敬の気持ちを持って接している。人格やプライバシーを損ねないような声掛けに努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は入職時に守秘義務に関する誓約書を提出している。</li> <li>・日頃より理念「大切な人だから」をモットーに、自尊心やプライバシーを損ねることのないようにやさしく丁寧な言葉づかいに心がけている。</li> <li>・個人情報に関する書類は、書庫に施錠保管している。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々コミュニケーションを取る中で希望を引き出し、出来るだけ希望に沿えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活ペースを尊重し、出来るだけ希望を聞き出して無理のないよう過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの習慣や好みを聞き出し、その人らしい身だしなみがおしゃれが出来る様支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を一緒にし、おやつも一緒に作ったりしている。また季節行事としてさんま炭火焼や流しそうめんをし季節感ある食事を楽しむ支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者は職員と一緒に楽しく味噌汁づくり、盛りつけ、配膳・下膳、テーブル拭き、食器洗い・拭きをしている。</li> <li>・職員は食事介助をさりげなくし、利用者と一緒に楽しい会話をしながら食事をしている。誕生会にはケーキを提供している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成しており、バランスの取れた食事を提供している。また食事水分表を活用し、水分が摂れていなければゼリーなど別の物で補えるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助により口腔内の清潔保持に努めている。また週一回の訪問歯科医により口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し、時間ごとの声掛けで失敗のないよう支援している。	・排泄表から一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなくトイレに誘導して自立支援をしている。その他、利用者がそわそわしたり、腰をさするしぐさから察知し声かけをしている。 ・支援によりリハビリパンツからトイレでの自立に改善した方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用し、日々様子観察をしている。水分摂取の促しや散歩などで体を動かし、排便があるように務めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望に合わせ、入浴出来る様に支援している。時間等の希望も考慮し、強制する事無く対応している。	・入浴は基本的には週2回以上とし、希望があればできるだけ入浴できるように支援している。 ・入浴をしたがらない方には、声かけの人や時間を変えるなど工夫をして入浴を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の習慣やペースを尊重し、安心して睡眠が取れる様支援している。入床時間も、各々が快適に安眠できるタイミングで休めるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用している薬の詳細については各個人ファイルに明記されている。また、月二回服薬管理指導を受け、問題点や注意点など詳しく説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望に合わせた役割が持てるよう、支援している。また、無理の無い様子観察・声掛けを行っている。本人の気晴らしや楽しみも持てるよう配慮している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の気持ちを尊重し、出来る限り希望に応じることができるよう努めている。日課の散歩や外出、外食の機会も定期的実施している。また、希望の買い物にも付き添える様に支援している。	・利用者は車いすの方も天候や体調、希望により、事業所の近くや公園を散歩している。ウッドデッキで外気浴をする時もある。 ・職員と一緒に近くのスーパーマーケットへ買い物へ行ったり、三ツ池公園へ弁当持参で桜見物へ行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができないと判断される入居者の金銭管理をしている。希望に応じて買い物に付き添い、支払いの代行をしている。金銭管理が可能な入居者の買い物の際は見守りや声掛けにより支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせ、家族や友人へ電話や手紙の支援をしている。定期的に手紙のやり取りをしている入居者、家族もいる為、双方が安心してやりとりが出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花壇や玄関先、フロアには季節感のある植物を配置し、居心地の良い空間になる様工夫している。光に対しては遮光カーテンで対応し、音に対してはTVの音量等日常的に配慮し、室温、湿度にも配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居間は明るく清潔に保たれている。天窓が開閉できて自然光を豊かに取り入れている。加湿器を置き、換気に配慮している。</li> <li>・壁面には利用者の作品や行事の写真、片隅にはクリスマスツリーを飾り居心地よく過ごしている。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはダイニングとソファが配置されており、入居者がTVを観たり談話をするなど、交流の場として自由に過ごせるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には馴染みのものや、好みに合ったものを持ち込み、ご本人が安心して生活できる空間と、生活環境を作れるよう努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室には使い慣れた整理ダンス、椅子、テレビ、思い出の家族写真を飾っている。</li> <li>・全室に加湿器を設置し、空調に留意し、レイアウトは本人・家族に任せ、居心地よく過ごせる工夫をしている。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備に努め、本人の能力を活かせるよう見極め、過剰な介助をせず、なおかつ安全な生活を送れるよう、見守りながら支援している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名

ウェルケア

作成日

H 2 3 年 1 2 月 2 8 日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	法人、グループホーム3施設合同の開催にて実施回数が年1～2回と少ない。	実施回数を2ヶ月に1回と増やす事で地域との関係が密になり防災や行事などもっと積極的に関わり合う事が出来る。	現状での開催方法で回数を増やすと共に事業所単位での開催、療養通所も交えグループホームのみでの開催など開催方法の改善を図ることで2ヶ月に1度開催をする。	1年
2	13	年2回の消防訓練（内1回は夜間想定）を行なっているが近隣住民の参加が少ない。	近隣住民との連携が円滑に連携できている消防訓練。地域の方々との関係が密になる事で地域に根ざし開かれたグループホームになる。	消防訓練時に積極的な声かけを行なう。運営推進会議なども活用するとともに地域の行事などのお手伝いにも積極的に関わることで受身だけではなくこちらからのアプローチもしていく。	1年
3	5	玄関が道路に面していることから防犯上、玄関の施錠をしている。玄関以外の居室、食堂などの窓、ドアは開いており自由に出入りが出来るようになっている。	常時、玄関を開錠する。	センサーの導入をすると共に外に出て行かれそうな入居者様は再アセスメントを行なう事で解決を図り常時開錠をする。	1年
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。